

〈センターより〉

センター通信の創刊にあたって

藤井 淑 禎

このたび立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センターの館報ともいえるべき「センター通信」を刊行することとなった。大衆文化研究センター自体の設立は二〇〇六年六月だが、その発足当初から館報と研究誌の刊行は当然の責務として我々の強く意識するところであった。センターの設立によって乱歩蔵書の公開はスタートしたわけだが、それと並んで果たさなくてはならないのが、さらなる資料の公開と研究の進展である。今回、センター通信に「研究ノート」と「資料紹介」の欄が設けられたのは、そうした理由による。そしてその拡大版、深化版が今秋にも創刊予定の研究誌であることは言うまでもない。これらの活動を通して、我々

は、二〇〇二年に旧乱歩邸と乱歩蔵書・諸資料を一括して引き受けて以来真摯に取り組んできた貴重な文化遺産の保存と公開、という両立困難な課題に向かつてさらに前進して行きたいと考えている。なお一言付け加えておけば、我々の言う大衆文化研究は決して乱歩やミステリー、さらには近現代の範囲などにとどまるものではない。大学の付属機関としての大衆文化研究センターという利点を存分に生かして、さまざまな領域の研究者たちの結集する場としてそれは想定されている。センターの活動、館報・研究誌の刊行が、全学的規模での大衆文化研究の大きなうねりへと広がって行くことを願って止まない。

編集後記

▽二〇〇六年六月、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センターが発足しました。その活動報告と資料紹介等の場のひとつとして、センター通信を発行することになりました。今回がその第一号です。

▽今年度のセンターの活動として、豊島区と共催の公開講座「(乱歩)―大衆文化成立の観点から」がありました。題目は以下の通りです。渡辺憲司教授「江戸のサブカルチャーから見る乱歩」、藤井淑禎教授「『家族』の誕生―乱歩と明智の時代」、石川巧教授「乱歩の美学―犯罪小説と法医学」、成田康昭教授「都市と犯罪文化―乱歩と新聞の想像力」。

▽前記の公開講座や、読売新聞社主催の「江戸川乱歩フォーラム」今年度は大沢在昌氏と福井晴敏氏のトークショーがおこなわれました、そのほか大学のいくつかのイベントに際して、乱歩邸の土蔵や応接間を公開しました。今年度だけでも、千人を超える方が乱歩邸を訪れています。

▽毎週金曜が乱歩邸の公開日です。土蔵は庭に入つて建物の周囲を歩き、応接間から眺められるようになっています。現在は応接間を外からのぞくことができる程度ですが、今後は資料の展示などもしたいと考えています。

▽二〇〇六年十月から十二月にかけての弥生美術館「竹中英太郎と妖しの挿し絵展」に協力いたしました。乱歩の蔵書から、平凡社版全集や「探偵趣味」、一名探偵

明智小五郎」などが展示されました。

▽乱歩の蔵書は閲覧が可能です。大学図書館のサイトで検索して、当センター事務室に事前に申し込みをしてください。乱歩邸別棟のセンター事務室で閲覧できます。ただし、資料の保存状態によっては閲覧をお断りすることもあります。また、雑誌の場合、切抜きがおこなわれていて、ページが抜けていることもありますのでご注意ください。

▽二〇〇七年度には当センターの紀要の刊行を予定しています。今回の「二銭銅貨荒筋」に続いて、そこらでも資料紹介ができるはずです。また、乱歩と探偵小説の周辺に限らず、広く大衆文化に関する研究活動についての報告もしていきたいと考えています。

(落合)

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター
センター通信 創刊号
二〇〇七年一月十五日 発行
編集・発行 立教大学江戸川乱歩記念
大衆文化研究センター

〒一七・八五〇一

東京都豊島区西池袋三―三四―一
電話番号 〇三―三九八五―四六四一
(FAX兼)
E-mail: rampo@grip.kyoto.ne.jp

開室日

月・水・金曜(公開は金曜のみ)

(十時三十分～十二時、

十三時～十六時)

資料閲覧には事前予約が必要です。